

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102073		
法人名	社会福祉法人日浦会		
事業所名	認知症高齢者グループホームレーブそとめ武番館		
所在地	長崎市上黒崎町2199番地15		
自己評価作成日	平成年月日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成25年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境、そこで畑等を作り収穫、献立、おやつに取り入れています。老健との関連にて医師や看護師と連携して健康管理をしています。また医師による週1回の回診があります。献立は栄養士が作成しておりバランスのとれた食事が提供できます。毎月の誕生会や節分等、行事も多く、外出も定期的に行ない全員が参加されお弁当・おやつ等持参しています。毎月新聞を発行しご家族にも生活の様子をお伝えしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

野うさぎや野鳥も生息している自然豊かな環境にホームはあり、リビングからは海を眺める事もできる。馴染みの方との交流ができるように、毎月、ホームに神父様が来て下さったり、地元の知り合いの方が尋ねて来られ、お部屋でゆっくり過ごされている。お弁当を持って、あぐりの丘や稲佐山、桜の里公園などへドライブしており、季節の花見を楽しまれている。日々の生活の中でも少人数で買い物に行かれたり、受診回数も多いため、受診の帰りに夕日丘(道の駅)に寄られる事もある。天気の良い日は周辺を散歩し、月2回は老健の行事(誕生日会や季節の行事)にも参加している。ホームで暮らす利用者の事を大切に思っている職員ばかりで、ホームでのお仕事(入浴介助・料理・畑仕事など)が大好きな職員も多い。利用者の重度化も見られているが、日々の生活リハビリを行い、下肢筋力が低下しない取り組みを続けており、食事の準備、もやしの根切り、おしほりたみ、新聞折り、洗濯物たたみなどの役割を担って頂いている。今後も職員の人員体制を整えていく予定であり、少しでも“ゆとり”のある時間を作る中で、少人数のレクなどの機会を増やしていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人で作られた運営理念の意向を汲んで利用者一人ひとりがより良い暮らしができるように努めている。	職員のチームワークも良く、まさに理念の1つである“職員間の和をもって明るい職場”という実践に繋げる事ができている。職員個々に得意な分野があり、食事や入浴支援、季節の飾り付けなど、入居者が喜ばれるアイデアを考え続けており、更なる改善が必要な内容は、現状を正確に施設長等に報告し、検討をして頂いている。	今後も担当責任者を中心に個々の取り組みを続けると共に、管理者が中心になり、年間計画の進捗状況の確認ができればと考えている。毎月のレブ会議で各担当者の取り組み報告をしてもらうと共に、職員主体のミニ勉強会等も行っていく予定にしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会で行われているミニ運動会に参加したり、地域の小学生にホームに来て頂き交流を行うなど、つながりが持てるように支援を行っている。	併設の老健施設に幼稚園や保育園の慰問がある時には、入居者も参加しており、ホームにも小学生や中学生が職場体験に来て下さり、一緒に楽しむ機会が作られている。上黒崎町自治会のミニ運動会や黒崎東小学校のコンサートに参加したり、学童保育との交流会も行われ、地域の鬼火焼にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会の総会に参加し、パンフレットを配付したり、地域の人々に理解してもらうように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者の状況、ホームでの取り組みの報告を行い、助言、ご意見を頂きサービス向上につなげ実践している。	災害対策の話し合いも行われ、「現実が発生した状況でマニュアルを作成した方がいい」とのアドバイスを頂き、地震防災対策のマニュアルも作られた。「入居者の心身状況などを知りたい」と言う事で、次回の会議から資料を作成し、配布するようにした。駐在所の方からは“振り込め詐欺”などの地域被害を教えて頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のすこやか支援課・包括支援センターの方に運営推進会議に参加していただき現状を把握していただいている。(たよりなども配付している)	併設施設の相談員とケアマネが、申請等の事務手続きもやっている。ホームから市の窓口に伺う事はないが、地域密着型サービスになり、地域との連携について等を運営推進会議の場で相談し助言を頂いており、親身に対応頂いている。会議では地域ネットワーク会議に関する情報も教えて下さり、参加の声かけを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」ホームの方針はスタッフ一人ひとりに定着しており、日常生活の中で利用者に喜んでいただけるケアに努めています。	日々のケアの中で、職員の声のトーンや言葉遣いが気になる時は、お互いに注意し合うようにしている。穏やかに過ごされている方が多く、一緒に歌を唄ったり、買い物が好きなお方には一緒に出かける等、入居者のお気持ちを大切にされたケアを続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な会議の中で、虐待については話し合っており、理解して日々の業務に生かしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	面会時などに家族と相談し、必要な人には金銭出納帳を作成し管理を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の範囲で入居時にご家族様に説明を行い理解してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の入居者の要望や苦情については、サービス担当者会議で要望、意見を聞いて、スタッフで検討し、運営に反映させている。	入居者、家族と一緒にサービス会議の内容は、家族に後日送られており、写真入りのお便りも郵送している。家族からの意見は職員全員で話し合い、解決が困難な時は法人全体での検討も行われている。法人全体で行われる主任会議でも現状を報告し、課題の共有と対策の検討が行われている。	ホームで家族同士が交流できる機会を増やしていきたいと考えており、今後も、施設長や副施設症と直接お話する機会を作り、一緒に検討していく予定にしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週月曜日に本部で行われている主任会議で情報の提供を行っている、又月に一回のレーブ会議で職員の意見を聞き対応している	職員のチームワークも良く、入居者の生活を考えた物品購入などの意見もあがり、可能な事は実現して頂いている。会議でも色々な意見が出ており、職員同士で共有し、日々のケアに活かされている。料理や畑仕事、入浴介助が得意、運転や飾り付けが得意など、職員の得意な事を発揮してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が楽しんで働ける職場作りに日々努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々目標を管理者が把握しており、目標達成に必要な研修は積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が、他のグループホームや事業所との交流を通じて一緒に学び親睦を深める機会を作りたい		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から詳しく話を聞いて、思いや不安を受け止め、安心してもらうことから始めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、ホームとしてはどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに来ることは実行し、出来ないことも検討し対応できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしの中で1人ひとりの出来ること(食事の準備、洗濯物たたみ、もやしの根切りなど)をお手伝いしてもらう事で関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での本人の様子を毎月月報でお知らせしたり、電話にて伝えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会してもらっている、又ご家族様に外出、外泊届けを出していただき、墓参りや一時帰宅が出来るよう努めている	馴染みの関係を大切にされており、月に1回神父様が来られている。家族と一緒にお昼ご飯を食べに出かけたり、お墓参りに行かれる方もおられる。地元の知り合いの方が尋ねてこられ、お部屋でゆっくり過ごして頂いており、母体施設の通所利用の方に会いに行かれたり、ホームにも遊びに来て下さっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間は出来るだけホールで過ごし、利用者同士が話をしたり、テレビを見たりするようにしている又誕生会の行事や、定期的に花見や買物などの外出をするように努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じ、相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の望む暮らし、把握に努めているが、日々の生活の中でゆっくりお話する時間を作り、ご利用者の表情や行動から思いを汲み取ったり生活歴や趣味などをお聞きし思いや意向の把握に努めている。	日々の生活の中で、更なる意向の把握を続けている。受診時や入浴時、食事中、お手伝いをして下さる時にゆっくりお話するようにしている。行動や表情の背景を推察するように努めており、“ご本人のできる事は何か”を家族とも相談し、ご本人の有する力を把握するようにしている。	人員体制を更に整えていく予定であり、少しでも“ゆとり”のある時間を作ると共に、少人数のレクなどの機会を増やしていきたいと考えている。日々の生活の中で思いや意向が聞かれており、今後も更に介護日誌等に残していく予定にしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の出来ることは何かをご家族様とも相談し、その有する力を把握する。又日勤、夜勤等の申送りを蜜に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議ではご本人、家族、職員が話し合い、併設施設の医師、他専門職等の助言を頂き、その人らしく暮らし続けるための計画を作成している。	全職員でアセスメントを行い、計画作成担当者が計画の原案を作成している。担当職員がモニタリングを行い、担当チームで計画の見直しの検討を行っている。体操や歩行訓練などのリハビリを日課にされている方もおられ、もやしの根切りや新聞折り、洗濯物たたみなどの役割も計画に盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の暮らしぶりを把握し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人やご家族のその時々状況などに応じて、いろいろなサービスに取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市の職員や警察、消防、自治会長などに参加して頂いており周辺情報や支援に対する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、本人・家族が希望の医療機関へ受診している 協力医以外は基本的には家族同行の受診となっているが可能な時には職員が代行している	医師による回診が週1回あり、日々の小さな変化の報告も行われている。受診時は職員が通院助手し、状態に変化があった場合は速やかに家族に報告しており、変化がない時は面会時に報告している。眼科・耳鼻科等の専門科は、家族と一緒に受診して頂いており、受診結果の共有もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と24時間体制で連絡、相談でき看護師が必要に応じ訪問してくれる、又週1回の医師の回診時には一週間の様子、状態など詳しく報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りはしない方針で重度化した時や急変時は、他の施設に移って頂く事や対応について入居時に説明している	ホームの方針を入居時に説明しながら、家族の意向の確認もしている。急変時は併設施設の看護師から指示を頂けると共に、入院や入所時には母体の相談員が担当しており、入居時から相談員と連携を図っている。重度化を予防するために、生活リハビリにも取り組み、異常の早期発見にも努めている。	今後も緊急時に職員が対応できるようにするために、レープ会議の時などに“誤嚥”等の対応訓練を含めて、ミニ勉強会をしていく予定にしている。ケース別の勉強会や演技演習を行う事で、実践力を身に付けていく予定であり、職員が交代で講師を行う方法も検討していきたいと考えられている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は受けているが定期的には行っていない ケース別の勉強会・実技を定期的に行ない実践力を身につけたいと思っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、火災については年2回利用者と共に避難訓練を行っている、地震や水害などの災害では孤立して場合を想定し備蓄などの検討を進めている。	地滑り地帯でもあり、実際に発生した場合のマニュアルが作られている。スプリンクラーも設置し、隣接ホームや併設施設の協力体制もできている。災害に備えて25年間保てる食料(シチューとクラッカーの缶詰)を120食分購入され、水質管理で残留塩素測定も記録している。水の備蓄も検討中である。	毎年4月と10月に避難誘導訓練を行う予定にしているが、24年度はできておらず、3月に2回行う予定にしている。隣接するホームとの合同訓練も行い、その後は併設の老健や消防署との訓練も検討している。災害時の連絡網も整備していく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に注意し尊厳を守り、声かけしている。	入居者に対する尊敬の念を持って接し、敬語で声かけを行うようにしているが、方言を使う方が伝わる方も多し。入居者の繰り返しの言動や思い違いに対しても職員は根気強く、優しく接するように努めている。羞恥心への配慮もしており、個人情報の保護にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ること、出来ないことを見極め、その時の状況に合った声かけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、一人ひとりのペースやコンディション、希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容にて好みのカットをしていただいている また、行事等はお化粧品をご自分でされたりと、それぞれおしゃれをされておられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根切りやおしぼり作り、箸並べなど一人ひとりの力を活かし準備や片づけを手伝って頂き一緒に行っている、食器は好みの物を使用できるようにしており、職員も同じテーブルを囲んで食事を楽しめるように支援している。	献立は母体の老健と同じで、老健に食材を受け取りに行かれている。旬の献立や行事食も多く、畑で収穫できた玉ねぎやさつま芋なども使用し、美味しい料理が作られている。もやしの根切りやテーブル拭きなど、できる範囲でお手伝いをして頂いており、職員も一緒に同じテーブルで食べられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立に沿って調理している、自分で飲める方には朝、夕お茶を居室に置いて水分補給できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけをして歯磨きをしていただいている 出来ない方に関しては毎食後に口腔ケアを行っている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室にトイレがあるので、ご利用者は自分の居室のトイレを使用している。声かけ誘導が必要な方には時間を決めて排泄を促し、排泄の失敗が減るように支援している。	各居室にトイレがある。排泄が自立している方もおられ、朝の掃除の時に便の付着状況等も確認している。尿意・便意の確認も行い、誘導が必要な方には時間を決めて誘導しており、失禁も少なくなっている。誘導時は声の大きさにも配慮しており、おむつを使用している方も、ご本人の排泄感覚を見ながら適宜交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操、水分補給を行い便秘対策に取り組んでいる 散歩等にも誘っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は1日おきにしているが、汚染(失禁ど)、したり、希望がある場合は入浴できるよう支援している。	“お風呂が1番”と言う方も多く、入浴介助が大好きな職員を中心に支援をしている。湯船に浸かれ“黒田節”などを唄われたり、麻痺の腕をご自分でリハビリされている方もおられる。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯等も生まれ、入浴拒否が見られる方は、なるべく気分が良い時にお連れするようにしている、	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり寝たいときに寝れるようにしている、毛布を2枚や軽い布団、薄い布団が良いなど寝具は希望に沿って気持ちよく寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている 自分で出来ない人には投与している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に外出したり、暖かい日は戸外に弁当を持って出かけ、楽しめるよう支援している	お弁当を持参して、あぐりの丘や稲佐山、桜の里公園などにドライブしており、季節に応じたお花見を楽しまれている。日々の生活の中でも、少人数で琴海のマックスバリュートに買い物に行かれたり、受診回数も多く、受診の帰りに夕日丘(道の駅)に寄られている。天気の良い日はホーム周辺を散歩されたり、月2回は老健の行事(誕生日会や季節の行事)に参加している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて管理し要望があればいつでも使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける事ができる方には掛けられるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下は季節によって飾りつけを変え、廊下には外出時の集合写真などを飾り、楽しめるようにしている	ホームから海が見えるように庭の木を切って頂き、周辺環境整備のため草刈り機も購入された。リビングの壁にはお雛さまのタペストリー等が貼られ、季節に応じた飾り付けをされている。ソファやテーブルのコーナーもあり、管理者等が摘んでこられた季節の花も飾られ、思い思いの場所で寛がれている。霧が発生しやすい場所でもあり、除湿をしたり、温湿度管理にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファではテレビを見たり、気の合った人同士でおしゃべりをされようように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様それぞれ使い慣れた物を持ち込まれている 写真・仏壇など	家族の協力も頂きながら、テレビや加湿器、電気毛布、洋服掛け、収納ケースなど必要な品物を持ち込まれている。ホームで撮影した誕生会の写真や家族と一緒に写った写真などを飾り、大切な十字架を置かれている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで移動が安易なように工夫しているが転倒などの恐れがある方は見守りを徹底している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23(9)	ご利用者の望む暮らし、把握に努めているが、日々の中でゆっくりお話をしたり、楽しむことがあまり出来ない。	現在の業務内容を見直し、ゆっくりお話ができる時間や、楽しむ時間を作っていく。	受診時の車の中や入浴時、食事中、お手伝いをしているときに話をしたり、又少人数のレクなどの機会を増やしていく。	12 ヶ月
2	33(12)	ご利用者が急変したときは併設の看護師に連絡して対応してもらっているが緊急時(誤嚥など)には難しい。	今後緊急時にも職員が対応できるようにしたい。	レーブ会議のときなどに“誤嚥”などの対応訓練を含めて、ミニ勉強会を計画する、又ケース別の勉強会を検討する。	12 ヶ月
3	35(13)	年2回の火災訓練を行うようになっているが、24年度は実施していなかった。	25年度は年2回の火災訓練を実施する。	避難訓練の実施は夜間を想定した訓練と隣接の壱番館と合同で避難訓練を実施する。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月